

平成25年度第2回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会議事録

- I. 日時： 平成26年3月24日（月）16:00から17:30まで
II. 場所： 公益社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室、S k y p e
III. 出席者： 玉野委員(Skype)、小林委員(Skype)
井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 学士力の考察及び教育改善モデルの見直しについて

前回の検討から見直し案が確認された。継続してよせられた意見の再確認を下記のように検討を行ったが、今回の議論では新たな変更はしないことにした。

- ・ 現状の教育体制を変えてしまうのではないかと不安、知識の体系化、学修成果を社会に発信することなど、多様性のある評価が質の評価につながっている。大学全体で評価すること、多くの専門家を取り入れていくことが重要ではないか。
- ・ 応用で学び直し、体系化のことは、各大学で考えていく必要があるのではないか。
- ・ 反転授業には、フューチャリングプロジェクトやMOOCの取り組みを参考に、例えば、基礎の部分を先生方で作成してJMOOCにのせるなど、新しい教材を作成する取り組みはどうか。到達目標3, 4レベルで数個の教材を作成してはどうか。
- ・ 良い授業をしているものをとりあげ、大学の持ち味を活かし、総合的に教材をそろえてはどうか。複数のモデル授業を提示し、改善を進めることで標準的なコースが構築できるのではないか。

2. 次年度に向けた取り組みについて

- ・ 今回の提言でイメージを提示したので、アクティブラーニングを前に進めるための、実践的な授業のやり方を紹介いただくこと。教材を大学間で調整するような動きにつながり、大学をこえて協力し合うスタイルができれば良いと考える。
- ・ 過去の取り組みでは、1年生に総合ゼミナールを実施していた。電気の先端情報ビデオを企業から提供を受けて、それを視聴させ、ディスカッションさせていた。学生に学びのガイドラインになる教材を提示できないか。
- ・ 例えば、MOOCのサンプルを作成して各先生で評価・改善を進めつつ取り組みはどうか。また、共有コンテンツから活用できるものはないか。
- ・ 反転授業のメリットは、できない学生に先生が関わること、できる学生はeラーニングで先に進める。
- ・ TBLも組み入れてはどうか、例えば、基礎テストで順位をつけて、それをもとにグループ化して学生相互にできる・できないの思いを理解させること。
- ・ 発展学修と基礎学修として能力をより伸ばすアドバンスなプログラムも必要とされるのではないか。松竹梅を設けて大学の特色が出せるのではないか。
- ・ 小学校の事例でタブレットを利用した反転授業の事例があるが、いち教員では、設備・教材の問題があり、大学として組織で取り組む必要がある。そのために、例えば、産業界から半導体工場の協力など求めているかどうか。企業ではライブラリを作成しており、応用の分野で利用できるが、作成の予算が高額で補助金が必要とされる。また、企業のものはその目的に特化している場合が多い。
- ・ 教材の作成は、例えば、一科目の教材をつくり、授業の振り返りをして次につなげてはどうか。先生方の戸惑いを感じているので、その解決の一步にならないか。
- ・ 半導体、エネルギー、通信工学などの例を2, 3とりあげてMOOCの教材用に作成し、その授業を考えてはどうか。
- ・ 教材を作成し、反転授業を実施することを、大学で議論してみる必要があるのでは

ないか。

- ・ 教員連携、社会との連携から能動学修のための反転授業を考えてみる。一つの方法として一科目でもMOOC用に教材を作成し、試行錯誤して学びを考えること。それを考えること呼びかけ、経緯を説明し、これから具体的に実施しても良いと思う教員に投げかけてみてはどうか。
- ・ 来年度は、委員会を2回開催し、3回目として交流会を企業家を含めて、新しい授業づくりへの対話集会を開催してはどうか。
- ・ アクティブラーニングは個々の大学、教員に考えていただくことで、環境づくりの情報を提供することが必要ではないか。
- ・ どのようなところに視点を持つのか、気づきのため学生が調べるポイントなどを示してあげる必要があるのか。どのような勉強や基礎力が必要なのか、どのようなことを学べば良いのかを示すこと。
- ・ 授業15回の内、数回をMOOCでディスカッションを取り入れ、課題をレベルを上げて提示する工夫など必要。また、その中で具体的には設計で失敗させることなども有効ではないか。
- ・ 半導体については、日本は世界のトップグループにおり、イノベーションにつながると考えられる。また、企業の協力で教材をそろえやすいこと、基礎と応用を結びつけやすく、視覚化しやすい利点が考えられる。その他に、回路シミュレータは学べば活用がすすめられる。
- ・ 来年度の委員会にて整理して 対話集会に向けて準備する。会は集まって研究することを呼びかけられないか、テーマは幅広く設定する必要があり、問題提起する、対話する場をつくってはどうか。アクティブラーニングについての気づきでは、高度なイメージを取り払い、日常授業からの工夫などの理解を進める。
- ・ 対話集会の開催時期としては、2月末から3月上旬が一つの案で、10、11月の授業のない日を想定または土曜も一つの案としてあがった。例えば、11月中旬から12月中旬までの土曜日を候補にしてはどうかの意見があった。

V. 次回の開催日程

- ・ 次回の日程は6月の土曜を候補にネットで調整することにした。